

MUKO

Art Collection

2026

[出展者]

石橋 志郎

ISHIBASHI Shiro

井手本 貴子

IDEMOTO Takako

岡島 美鈴

OKAJIMA Misuzu

奥村 京華

OKUMURA Kyoka

日下部 直起

KUSAKABE Naoki

高橋 克也

TAKAHASHI Katsuya

中台 よし子

NAKADAI Yoshiko

中西 玉蘊

NAKANISHI Tamao

山田 千尋

YAMADA Chihiro

まちとひとが、

アートでつながる。

2026

10.10[sat]—10.18[sun]

9:00—18:00 ※10月10日のみ10:00—18:00

永守重信市民会館

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地

[お問合せ先]

向日市ふるさと創生推進部文化推進課

TEL(075)874-3881 FAX(075)874-1810

e-mail : bunkasuishin@city.muko.lg.jp



会場までの
アクセス

※五十音順

MUKO

Art Collection 2026

／ 出展者からひとこと ／



石橋 志郎
画家

ゆったりと大らかに眺めることのできる光を、
とどまることなく移ろう時間を感じとることのできる光を、
象徴的な絵画として表現してみたいと思います。

植物をモチーフにしながら、自身の心情を描いている。ある年は心惹かれる草木や花々でも、次の年になってみると心に響かない。それは、植物の輝きと私の心情が共鳴できるかそうでないかで見え方が変わるからではないかと思っている。「描きたいと思う瞬間」を振り返ると、植物が放つ輝きにはとした時に作品のイメージが頭に浮かぶ。近年は、向日市で出逢った植物からインスピレーションが湧いている。



井手本 貴子
日本画家



岡島 美鈴
油彩画作家
昭和美術会会員

油彩画を始めて26年になりました。最初、5年くらいは向日市のサークル活動で西山孝先生を師事、その傍ら、昭和美術会展に初出品入選、明年、新人賞を受賞、会友推挙される。昭和美術会名誉会長 西尾草峯先生師事し16年になります。受賞歴も16年間毎年受賞。現在西尾先生主宰、京洛美術院に月1回受講、油彩画、水彩画など日々勉強させて頂いております。

—アナタに桜咲く—

時には古木に顔をだす
小さな花に魅せられて
「こころに花を咲かせたい」

そんな想いで描く
ある日ある時の桜たちを
ご覧いただければ幸いです



奥村 京華
桜画家

大原野に暮らして30年、柴犬を飼って6年。犬と出会った風景、そしてアンティークなモチーフとイタリア風景を主に制作しています。刻を経たモノはひとつの役割を終えて新たなモノとして甦ります。イタリアや大原野の光を「再生の光」として捉えたいと思っています。



日下部 直起
洋画家
二紀会委員



高橋 克也
イラストレーター
写真家

色鉛筆はとても身近な画材です。でも、面白味のない画材ではありません。近所の散歩で見つけた身近な風景を、ときには遠い国の絶景よりも大切な宝物だと思えるように、僕は日々、色鉛筆の小さな世界を旅して、小さな発見に驚き続けています。

「剪画」(切り絵)は本来黒い和紙をベースにカッターナイフを使って制作し風景や人物など写実的な表現が題材に多く取り入れられています。私の場合は、心象や抽象をテーマに制作しており、心が発するまま、感じるままに色や形にとらわれることなく、自由に表現制作しております。



中台 よし子
剪画作家



中西 玉蘊
日展会友
日本画家

向日市で「京都向日美術学院」を立ち上げ、今年で、創立27周年を迎えます。幼児から大学生まで、これまで多くの子どもたちと共に、美術の楽しさや表現する喜びを学んで参りました。作品の特徴は、日本画の伝統的な技法や、岩絵具や膠、金箔などの画材を用いながら西洋の寓話や文学的モチーフを再解釈したものが多く見られます。単なる挿絵ではなく、物語のワンシーンやそこから広がる余白を、日本画の画面上に独自の精神性をもって昇華させています。今回の展示では、寓話や物語の作品が多く出品していますので文学的背景も感じながら楽しんで頂けると嬉しいです。

不安、恐怖、不快さをモチーフにしています。抱いていた感情とは切り離されたイメージが絵のなかに立ち上がってくることが、自分の感情を昇華させていくことにつながっています。



山田 千尋
画家